

## (8) 近畿



近畿地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、 \_ は下方に変更)。

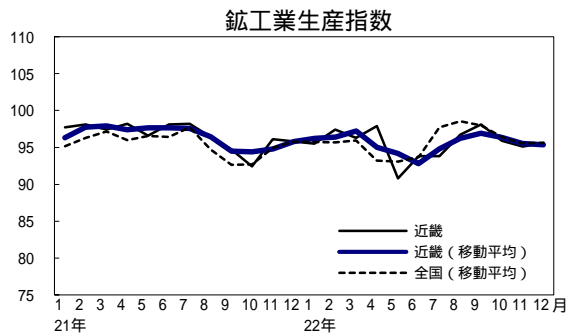
### 前回からの主要変更点

	前回(令和4年11月)	今回(令和5年3月)
鉱工業生産	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに足踏みがみられる

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

10 - 12月期の鉱工業生産は、汎用・業務用機械が低下したこと等により、前期比0.7%減となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。  
2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
化学	12.4	11.1	1.1	0.7	2.1	0.3
電気・情報通信機械	11.7	0.8	13.2	4.0	8.0	0.9
汎用・業務用機械	10.4	1.3	4.0	13.1	11.8	3.7
生産用機械	10.1	19.4	0.2	3.3	3.0	3.7
輸送機械	8.7	9.6	9.0	6.2	3.8	7.0
鉱工業	100.0	2.1	0.7	2.2	0.8	0.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10 - 12月期、12月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

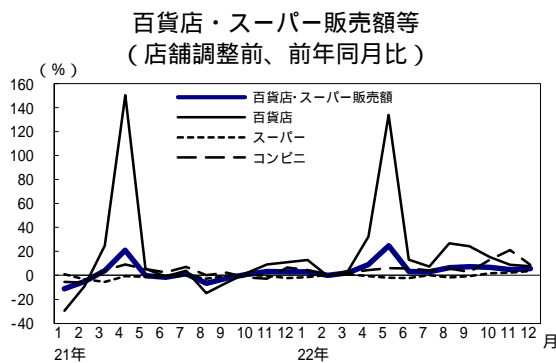
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

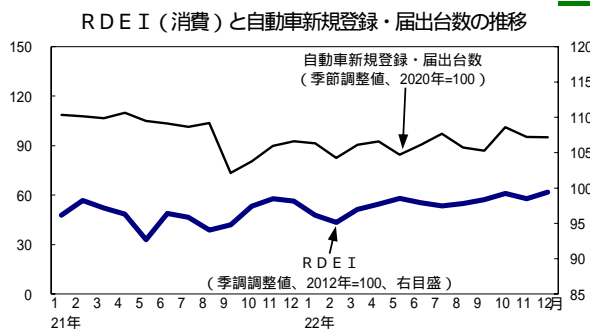
10 - 12月期は前期比1.2%増となった。月別にみると、10月は前月比0.9%増、11月は同0.8%減、12月は同0.9%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12月期は前年同期比5.7%増となった。月別にみると、10月は前年同月比6.7%増、11月は同4.8%増、12月は同5.5%増となった。



	2022年10-12月	2022年10月	11月	12月
RDEI(消費*1)	1.2	0.9	0.8	0.9
百貨店・スーパー(*2)	5.7	6.7	4.8	5.5
百貨店(*3)	10.0	15.2	8.8	7.7
スーパー(*3)	2.6	1.8	2.2	3.7
コンビニ(*3)	14.3	13.3	21.2	9.0
乗用車(*4)	9.5	25.2	3.7	2.4
(季節調整値)(*4)	6.8	16.5	6.0	0.1

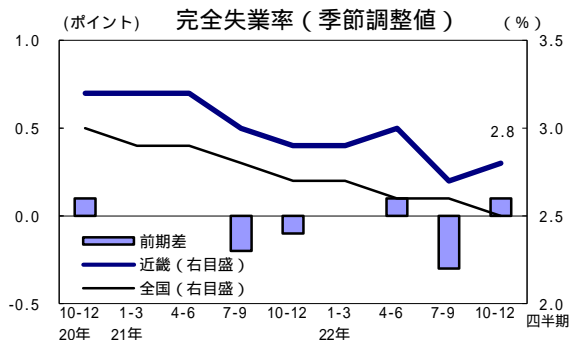
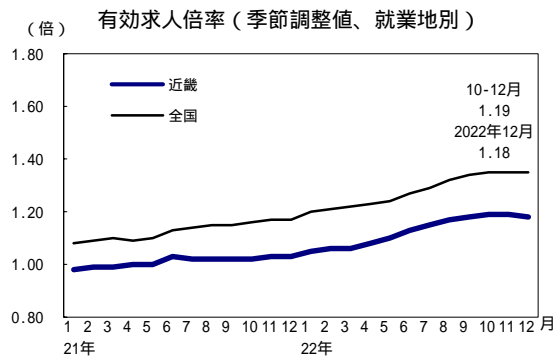


- (備考)
1. 季節調整前(前期(月)比 (%)
  2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
  3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。
  4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

## 3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年1月調査）景気判断理由の概要

8. 近畿

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□ ・年始の福袋の販売やクリアランスセールは前年並みの動きであり、必要な物を見極めて購入する傾向が主流となっている。今月はコロナ禍の下でも人の動きは比較的活発で、気温の低下もあって防寒商材の動きが堅調であり、外に出掛けてのショッピングを楽しんでいると感じる。一方、価格の上昇によって生鮮品の購入が減少するなど、日々の買物にはシビアになっている（百貨店）。
		▲ ・年末に忙しかった反面、年始はいろいろな物が値上がりしており、値段をじっくり見て買う客が増えたように感じる。売上の方も厳しくなっている（スーパー）。
		○ ・国内販売の最大化に向け、新車が国内市場に振り向けられている。少しずつではあるが、納車の増加につながっている（乗用車販売店）。
	企業 動向 関連	□ ・建設資材価格が高騰し、納期も不確定なため、取引先の設備投資計画に変化が生じている。当初の予算と現状の価格がかい離し、納期も決まらないため、工期が確定できず、設備投資計画の延期や凍結、縮小が増えている（建設業）。
		▲ ・家電や車載向け製品の販売は堅調であるが、建設資材向けの販売が低迷している。また、原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁し切れず、利益の減少が続いている（化学工業）。
		○ ・年末年始に行動制限が行われなかったため、観光地での人流が増え、飲食店の客も多く感じた。飲料水の売上も少し良くなっている（食料品製造業）。
雇用 関連	□ ・求人数は引き続き増加している。来年度を見越して採用を増やす客も多く、人材需要の観点からは、急激な景気の腰折れは感じられない（民間職業紹介機関）。	
	▲ ・求人の動きが鈍化している（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント	○：国内旅行は全国旅行支援の対象か否かにかかわらず、需要が伸びてきた。ビジネス利用以上に、3世代の旅行を含む家族旅行が増えている（旅行代理店）。 □：厳しい天候の変化や、手探り状態にあるウィズコロナの対応から、外食に対する客の戸惑いが見受けられ、来客数は不安定である。また、度重なる仕入価格や光熱費の値上げで、支払が増えている。直近は来客数が増えているにもかかわらず、利益を考えると業況は横ばいであり、回復しているとは言い難い（一般レストラン）。	
分野	判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	□ ・しばらく続いてきた好調は今後も続く。今まで開催が少なかった宴会部門でも、通常の会議や宴会が少しずつ増えており、コロナ禍を気にしながら、昼食プランでの懇親会の開催がみられるなど、少しずつ動きが増えていると感じる（都市型ホテル）。
		○ ・コロナ禍の影響が弱まったことで、新生活需要が増える可能性がある。また、転勤などの増加も予想されるなど、ようやく以前の状況に戻ると期待している（家電量販店）。
	企業 動向 関連	□ ・海外生産から国内の生産に切り替える流れがみられる。今まではみられなかった、衣料品の国内生産が増えている（輸送業）。
		▲ ・問合せ件数が減っている。新規立ち上げ時は、まず問合せが入り、打合せを経て試作となるが、そもそも費用が掛からない段階での問合せが減っている（プラスチック製品製造業）。
	雇用 関連	□ ・現時点では、前倒しで情報の公開や採用の選考が進んでいるため、今後2～3か月で求人等が急激に増えるとは考えにくい。ただし、ここ数年はコロナ禍で採用を縮小、中断していた企業が新卒採用を増やす見込みであり、トータルでは大きな変化はないか、少し増える予想される（民間職業紹介機関）。
その他の特徴 コメント	○：企業の出張や外国人観光客は更に増えることが予想されるほか、多くの商品の値上げで客単価もアップしているため、売上の増加が期待できる（コンビニ）。 ○：卒業式や入学式などの行事が対面で行われる見込みのため、予約が入り始めている（美容室）。	

(D I) 現状・先行き判断D Iの(近畿)推移(季節調整値)

